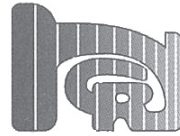


フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行：中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明 1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>



病院機能評価を終えて

中部労災病院 看護部長 真部 高子

当院は、患者さんにとってメリットのある医療の質改善の実現のために、平成17年から5年毎に「病院機能評価」を受審しています。病院機能評価とは、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動が適切に実施されているかを第三者が評価するものです。書面審査に加え、サーベイヤーと呼ばれる当院と関わりのない院外の医師、看護師、事務職員の3職種がチームとなり当院を訪問し、実際の活動状況を所定の評価項目に沿って審査します。

当院は、3rd.G：(第3世代)Ver.1.1と呼ばれる新評価体系で7月23日、24日に訪問審査を受けました。新評価体系では、入院している期間だけでなく、外来診療から退院までの一連のプロセスを重視して評価されることが特徴です。

準備段階では、病院内の様々な職種が連携してルールや手順が安全かつ確実に実施されているか点検し、必要に応じて改善に向けた活動を展開しました。特に、直接患者さんの不利益につながる恐れのある感染対策や医療安全については、より重点をおいて確認しました。また、院内メンバーによる訪問審査のシミュレーションでは、確

認する側、される側がそれぞれの立場で当院の状況を見つめ直す良い機会になりました。評価項目の一つ一つを確認することで、これまで気になってはいながらも、手をつけられずにいた課題や、新たに明確となった問題に対して、解決に向けた行動をとることができました。

訪問審査当日は、面接調査の後、サーベイヤーによる病棟や外来の訪問により、患者さんの利便性やプライバシーの保護など、療養環境の確認がなされました。

その後、患者さんに実施した記録に沿って、医療行為だけでなく、患者さんの治療に対する考えや思いを医療者に伝える仕組みが実際に運用されているか、チーム医療の対応など、詳細に確認されました。

以上を受けて、審査結果を心待ちにしていたところですが、先日、日本医療機能評価機構より「認定」を無事いただくことができました。今回の結果に満足することなく、今後も改善行動を重ね医療の質のブラッシュアップにつなげたいと考えています。そして、病院理念である「納得、安心、そして未来へ」を礎に、患者さん中心の医療を目指し、地域の皆様の期待に応えられる病院運営に努めたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

今月号のお知らせ

- ①病院機能評価を終えて
..... 中部労災病院 看護部長 真部 高子
- ②身近な診療科：泌尿器科
..... 泌尿器科部長 小谷 俊一
- ③薬と健康の週間に寄せて～薬のことをもっと知りましょう。～
..... 薬剤部長 長谷川 功

- ④私の車いす生活 就業への道のり
..... 青山 和幸
- ⑤第9回 市民健康セミナーを終えて
..... 神経内科部長 亀山 隆
- ⑥院内行事開催記録
- ⑥編集後記
- ⑥当院の理念・当院の基本方針


 医師


身近な診療科：泌尿器科

泌尿器科部長 小谷 俊一

「泌尿器科（ひにようきか）」と聞かれて、「何となく恥ずかしい」「皮膚科とどう違うの？」などを思い浮かべられる方も多いかと思います。実際、何年も悩んで、一大覚悟をして初めて泌尿器科を受診される患者さんも時々みえます。

泌尿器科で扱っている疾患は、尿路（尿が作られ排泄されるための臓器：腎臓、尿管、膀胱、尿道）及び男性生殖器（精巣、精巣上体、精管、精嚢、前立腺）に発生する疾患です。具体的には、良性疾患（炎症、尿路結石、排尿障害、外傷、先天性奇形、男性不妊、男性性機能障害など）と悪性疾患（前立腺癌、膀胱癌、腎癌、腎盂癌、尿管癌、精巣癌など）に分かれます。また、皮膚科とは完全に別の科で、扱う疾患も一部の性感染症を除いては全く異なっております。

この中でも最近、以下の①、②、③が増加中です。

①排尿障害：高齢化社会になり、男性では前立腺肥大症に伴う排尿困難、残尿の増加、また男女ともに過活動膀胱による尿意切迫感や頻尿、重症例では尿失禁も見られます。このため、夜に何回もトイレに起きて、睡眠不足や、夜間の転倒など生活の質の大幅な下落を余儀なくされている方も多いかと思えます。またせっかく時間ができて旅行などに行こうと思って

も外出先でのトイレが不安で自宅に閉じこもってしまう方もいらっしゃいます。

②前立腺癌：最近のPSA検診の普及で早期発見される患者さんが増加しており、国立がんセンターの2015年予測では、男性で新たに癌と診断される部位別癌罹患数では前立腺癌がトップになっております。

③尿路結石：腎臓や尿管の結石が大半を占めます。この内、小さな結石（通常5mm以下）は自然排泄が期待できますが、それ以上では外科的処置が必要とされています。また余り世間では知られていないのですが、施設で寝たきりの高齢者では小さな結石でもこれが尿路を閉塞させ、重症の尿路感染や敗血症を引き起こすケースが増加しており、医療界では大きな問題となっております。

以上、泌尿器科の概要を解説させていただきましたが、高齢化社会での泌尿器科の重要性は今後ますます増加することが予想されます。気にかかる症状があるかたはどうか早めに受診してください。

なお、日本泌尿器科学会のホームページでは、一般の皆様向けに泌尿器科の症状を詳しく解説しておりますので、参考にしてください。

日本泌尿器科学会 検索



★「フィリア・レター」は、中部ろうさい病院が、患者さんに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さんの建設的な意見を反映する広場として発行しています。

薬剤師



薬と健康の週間に寄せて ～薬のことをもっと知りましょう。～

薬剤部長 長谷川 功

みなさんは、処方された薬を正しく服用していますか。また、ご自身が処方された薬は、いつ服用し、どんな働きをするのかご存知ですか？

今は多くの患者さんが院外処方になっていますが、お薬の疑問について薬剤師に聞いていますか？お薬の疑問については、院内・院外問わず、薬剤師に聞いてください。

病気の治療にとって、医師が処方した薬を正しく服用することは、とても大切なことです。正しく服用する上で、現在処方されている薬が非常に多い場合、なんでこんなに服用しなくてはいけないのかを理解していないと、服薬を忘れてたり、中断してしまう原因になります。ですが、患者さんにとって必要である薬の知識、認識を持っていれば、服薬を忘れてしまうなんて怖くてできなくなります。

血液検査値や症状等を是正するために薬は処方されており、患者さん一人一人の状態を治すために薬の種類が増えてしまっていることもあります。医師は決して無駄な薬は処方していません。服用の意義をわかっていないと、服薬が悪くなりがちになってしまい、病気の症状改善にはつながりません。正しい量を正しく服薬し、初めて効果が出ると考えてください。余分に服用しても、何も良いことはありません。副

作用が出るだけです。服用上の注意すべき点がある薬については、食べてはいけないものや服用時間を守らないとせっかく服用しても効果が十分発揮できなくなってしまう。

薬の説明書を読んでわからないことがあったら、いつでも薬剤師に聞いてください。薬剤師は服薬を良くするための「薬の水先案内人」です。

- ご自身の服薬状況に関しては、医師に正しく伝えてください。服薬が不十分なのに正しく服薬しているなどと言ってしまうと、医師は「正しく服薬しているのに効果が出ていない」と考え、さらに薬が増えてしまうこともあります。正直にお話ししてください。
- 処方薬は基本的に新しいものから服用してください。そうすることにより、服薬の状況が判断できます。古い薬から服用していると、処方薬による変化に気づかないこともあります。新規の薬が増えた時は、症状の変化に注意してください。

薬は正しい服用が最大の力を発揮してくれます。「薬の道案内人」である薬剤師を十分に活用し、薬でわからないことは何でも聞いてください。

薬と健康の週間とは (平成27年10月17日(土)～10月23日(金))

医薬品を正しく使用することの大切さ、そのために薬剤師等の専門家が果たす役割の大切さを一人でも多くの方に知ってもらい、国民医療の質の向上に貢献することを目的として設定された週間です。毎年、全国各所でイベントや積極的な啓発活動が行われています。

私の車いす生活

～中央リハビリテーション部・社会生活講座より～

就業への道のり～障がいがあっても働ける可能性はあると思う～

青山 和幸 48歳 頸髄損傷・四肢麻痺

これまでの経緯

25年前、交通事故で頸髄を損傷。リハビリ訓練を3年ほど行う。退院し自宅に戻ってからは体調などが優れなかったこともあり、何の活動等もしないまま、あっという間に7年が過ぎてしまう。

就労につながればと思いパソコンを購入してパソコン講座に参加。それをきっかけにワーカー募集に応募・採用され、登録ワーカーとしてパソコンを使用する仕事をして現在に至る。

仕事以外には、「頸髄損傷者連絡会・岐阜」に参加。



在宅勤務の様子

講演内容

1. 障害と生活について

●病院での生活

入院から3ヵ月後にリハビリ専門の病院に移りました。そこでは、まずベッド上で柵を使い起き上がる練習をしていましたが、この頃は体が起き上がると立ちくらみのようなになるので、休憩を入れながら行い、出来るようになると、次はベッドから車いすに移乗することや衣服の着脱、物をつかむ練習などをしていました。その後、中部労災病院に移り、車いすでの移動やプッシュアップの為に筋力強化を主に言い、さらに、車いすから自動車に移乗する練習なども行っていました。

●自宅での生活

自宅での生活では体調管理が難しく、特に褥瘡予防には気を使い、ベッド上では一定の時間ごとに横になったり、車いすではプッシュアップをしています。外出の時は、自宅の周りは坂道が多く駅までの移動が難しいので車を使います。

2. 仕事について

●働く為の道具

たまたまテレビで障害者がパソコンを使用して働くことを見たのがパソコンを始めたきっかけです。それでパソコンを購入し「障害者を対象にしたパソコン講座」に参加、その時この講座を委託されていたNPO法人バーチャルメディア工房ぎふで遠隔教育の話があり、参加しました。それをきっかけにワーカー募集にも応募しました。

●現在までの主な業務

業務は、在宅と通勤の2つに分かれます。在宅では「データ入力、プレゼン資料作成、eラーニング講座の講師、ホームページ作成業務」など、

通勤では「パソコン講座の講師、調査研究業務」などを行ってきました。

3. 働くために必要なこと

●日常生活について

重度障害者にとって体調管理は重要なことです。まずはどんなことで体調が悪くなるか把握すると、対処の方法が見つかると思います。それによって自分にあった生活のパターンを徐々に作っていきます。仕事をする上では時間の管理も重要になりますが、生活のパターンができていれば時間の管理も必然と出来てきますし、仕事にあわせた生活パターンに少しずつ変えることも出来ると思います。

●スキルについて

仕事をする上で必要なスキルは2つ、技術的なスキルと社会的なスキルだと思います。まず、仕事をする為にはその仕事に対する専門知識が必要です。その技術的なスキルを習得する方法は幾つかありますが、重度障害者が一般の専門学校などへ通うのは介助などのいろいろな問題があり大変です。そこで支援団体などが行っている「障害者を対象にした講習」を活用し勉強すると良いと思います。ただ勉強するのではなく、資格取得などを目標に学習すると受験日がありますから計画的に学習でき良いと思います。

また、「障害者団体の懇親会など」に参加することによって、同じような障害を持つ人と出会い、情報を交換したりでき、いろいろな人と関わることでコミュニケーション能力などの社会的スキルも習得できると思います。

自分の興味あることから、始めたり参加したりすると、そこから新たな社会参加の道ができるかもしれません。

*** 中央リハビリテーション部・社会生活講座とは ***

入院患者さん向けの生活支援応援会。社会復帰して活躍されている脊髄損傷者の方に、地域社会での生活について情報提供してもらピアサポートの場。患者さん・ご家族の元気力アップと悩み解決に役立つ講座となるよう活動しています。



医師

第9回 市民健康セミナーを終えて

神経内科部長 亀山 隆



平成27年7月4日(土)名古屋国際会議場にて第9回市民健康セミナー『おしっここのトラブルー近い、出にくい、間に合わない…どうすれば良い?ー』が開催されました。年をとると誰もがおしっこのトラブルを抱えながら、誰にも相談できずに我慢して悩んでいることが多いのではないのでしょうか。身近で関心のある排尿トラブルというテーマについて、基本的知識から実践的で具体的な対処法についての講演が行われ、約230名の参加者があり、皆さん大変熱心に聴講され盛況でした。

最初に『身近な診療科：泌尿器科の話』と題して当院 泌尿器科部長の小谷俊一先生が講演され、泌尿器科の歴史についての話から、尿路結石について話されました。尿路結石の生涯発症率は男性で7人に1人、女性では15人に1人と増加傾向で、今や生活習慣病とも考えられてきていることを紹介されました。なりやすい因子としては夏場など高温環境のほか、肥満の人、アルコールの多飲や夜遅く脂っこい物を食べる習慣があげられ、職業ではドライバーに多いとのことでした。そして、「泌尿器科を身近に感じて下さい!」と締めくくりました。



次に、医療法人嘉新会 千田クリニック 副院長の千田基宏先生が『排尿トラブルの基礎』について、尿の「出にくい」病気の代表である男性の前立腺肥大症と、「近い」「間に合わない」の代表である女性に多い過活動膀胱についての基礎的なお話をされました。いずれも年齢とともに増加する身近な問題ですが、正しく評価・治療をして排尿トラブルを軽くすることが、生活を快適にし、他人に手間を

かけないことにつながると強調されました。特にかかりつけ医での治療で効果のない人や残尿が多い人は、ぜひ泌尿器科を受診してほしいと結びました。



最後に特別講演として、社会医療法人財団 新和会 八千代病院 副院長・看護部長の長坂和子先生が『排尿トラブルの実践的対処法』と題して講演されました。排尿トラブルは、治せるものは治して、快適な生活を送れるようにする、そのためには看護師でもかかりつけ医にでも、まず、相談・受診することが第一で、「排尿日誌(排尿の時間、尿量、漏れの有無や漏れた量などの記録を書いた日誌)」を記録して受診することが、適切な対処法がわかり有用であることを強調されました。そして、日頃から排尿トラブルを悪化させない日常生活(排尿環境、保温、リハビリや体操など)や、症状に応じた実践的対処法について詳しく丁寧に説明がありました。尿が近い、漏れるという症状に対しては、座ったままでできる骨盤底筋訓練の方法を会場で伝授されました。また失禁量に応じたおむつやパッドの選択など、個々の人に合わせた対処法があることがよく理解できました。



司会の芦原心療内科部長のあいさつの言葉を借りると、今回は大変「お値打ち」な内容のセミナーでした。おしっこのトラブルは一人で悩んで我慢せず、諦めないで、まず相談・受診して下さい。そこから希望が見えてきます。

院内行事開催記録

◆看護週間◆

毎年5月12日の看護の日に合わせ、「看護週間」のイベントを開催しています。気軽に看護にふれていただける楽しい行事をメインに、「看護の心をみんなの心に」というテーマを来院の皆さんにも知っていただけるとても良い機会となっています。今年も大変多くの方に興味をお持ちいただき、職員にとっても笑顔になる温かい時間となりました。



◆いきいきバイキング教室◆

当院講堂にて、第3回いきいきバイキング教室を開催しました。『美味しく楽しく糖尿病を学びませんか』のテーマの通り、終始皆さんの笑顔や拍手が溢れる、とても明るい教室となりました。

教室は、講義や一人一人の食事量の計算、それを基にした料理の選択と試食、食後の簡単なストレッチという流れで進み、ご自身に合ったものを知ることで広がる食事の楽しさを感じていただけました。



中部ろうさい病院 公式 facebook を始めました。



中部ろうさい病院 《official》

検索

いいね!

ぜひチェック
ください。

～～ 編集後記 ～～

日が短くなるとともに窓から涼しい風が入り始め、季節の移り変わりを感じるこの頃です。きらきらした夏の思い出とは裏腹に、溜まってしまった疲れや不調には早めのケアをしていきましょう。さて、今回のフィリア・レターでは、病院ならではの取り組みや、ご好評いただいた市民健康セミナーについて泌尿器科及びセミナーの内容をご紹介いたしました。また、薬と健康の週間に寄せて、薬本来の力を発揮するために重要な服薬の話題も取り上げています。文章中にもありましたが、専門的知識を持つ病院スタッフを身近に感じ、皆さんの健康のためお役に立てただければと思います。(A.S)

当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・ 医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・ 生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・ 人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・ 地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・ 災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供